

■ 大賞受賞の声

この度は IPEC21 大賞という素晴らしい賞を頂きありがとうございました。今年の IPEC には、設計の多彩な発想を自由に受け止める「素材」といえる商品、「フレームキッチン」「ハーバスルーム」を軸に出展させて頂きました。これらは「自在性」「飾り付けないこと」がキーワードのシンプルな商品です。展示ブース企画については、商品の単なる陳列や、大きな会

社のロゴばかり目立つような展開にはしたくなく、企画段階から考慮にいれ、あくまで商品を生かした、気持ちの良い生活空間をイメージさせるようなブースを目指しました。今回の IPEC21 で、プロのお客様に発売までもないこの商品を良いタイミングで知っていただくことができました。また、お陰様で比較的長い時間いろいろな角度から、ブースを覗いて頂く方が多く、商品やブースに対するお褒めの言葉や、

具体的な商品への質問、また時に厳しいご意見も頂戴しました。これ等が何よりの収穫であり、今後の商品開発に生かせるヒントになりました。これからも、気持ちの良い空間づくりの「名脇役」と言っただけのように TOTO は頑張ります。IPEC21 のますますのご繁栄を願っております。ありがとうございました。

東陶機器(株) デザインセンター 菊池様

■ IPEC21-2004 表彰受賞者名

各賞名		受賞基準となった要項	受賞出展社
大賞	IPEC 大賞	出展企画・内容及びスペースデザイン・プランニングデザイン等が特に優れ、IPEC21 展示会にふさわしいと評価できるもの	東陶機器株式会社
総合賞	スペースデザイン賞	ブースを生かし、空間に新しい試みと提案があり優れた空間デザインとして評価できるもの	シーアイ化成株式会社様
	プランニングデザイン賞	出展企画と展示計画・内容に優れ、また、隣接ブースとのゾーニングや周辺との調和バランスに優れているもの	株式会社チェルシーインターナショナル様 ルートロン アスカ株式会社様
	新技術賞	建築・インテリアに関して新たに開発された技術で、今後の発展が期待できると評価されたもの	株式会社エー・ジー・クルー様
	奨励賞	伝統の技術や素材などを生かし、時代性に対応した取り組みや提案があり、今後の展開が期待されるもの	株式会社フジマック様 株式会社杉原商店(サンホールドグループ)様 株式会社田代合金所様 株式会社添島商店様 青谷和紙株式会社様 株式会社ランドスケープハウス様

■ 会員交流フォーラム

第 20 回賛助会員の会インフォメーションの会報告

今回は第 20 回の節目の会ということで発表企業を広く公募し、その中からハンスグローージャパン(株)さんの企業訪問 & 発表の会を 9 月 13 日に開催しました。当初の予想では参加者は少なめと考えておりましたが当日オープンしましたら、定員を上回る 53 名の参加があり用意された資料が不足する程の、大変な盛況ぶりでした。前半は「プロダクトデザインから住空間へ」をテーマにハンスグローエ AG「ア

クサー」ブランドディレクターのフィリップ・グローエ氏が、同社マーケティング課長の片桐女史の通訳で、企業理念、100 年の歴史、著名デザイナーとポルシェデザインとのコラボレーション、これはなんとプロジェクトを組んだのは 1997 年から、技術開発は `99 年と言うから驚きです。また(Aqua=Tequr)水と建築についてなど、とてもわかり易く説明していただき、海外のある建築家のアイデアとして「将来のバスルーム、バスタブ不要のシャワー」といった、とても興味深いお話などを聞くことが出来ました。後半はショールームに移動しワ

インとサンドイッチを片手にフィリップ・スタルクデザインが、みごとにパッケージされた浴室に感心したり、シンプルで個性的なフォルムの水栓金具のメツキ技術を賞賛したりと、わきあいあいとした懇親会となり、あっという間に終了時刻の 9 時を迎え、参加者それぞれが、後ろ髪をひかれるように、ショールームを後にしました。ご参加、ご協力頂きました会員の皆様、賛助会員の皆様、そしてハンスグローエジャパン(株)の皆様、お蔭様で大盛況のうちに終了することができましたこと、この書面を借りまして御礼申し上げます。

■ 途中下車

木の家に住んで来た日本人の暮らしは、戸外の自然とゆるやかに繋がっているのが特徴だ。木の柱の間にはめた障子を開ければ緑があり、庭がなくても借景と称して山や川を、さらには月さえも我が家に繋がるひとつの風景だとする考え方、本人の住まい方は自然と密接な関係が成り立っている。と、小原二郎教授が書かれておられる。(11 月 4 日号の「サライ」から)今回は(自然が見えるインテリア)と題して展開をしておられる、リリカラさんにお邪魔しました。自然界の色彩法則に従って自然の色彩環境を再現すると、無機質な空間にも生命が帯びて来るという主旨か

ら、英国のファローアンドボール (F&B) のエステートエマルジョン塗料を扱っています。この塗料は英国で 200 余年の伝統ある製造方法を守り続けていて、ナショナルトラストをはじめ数多くの歴史的建造物の修復に使用されている、壁紙の上からぬれる塗料です。『陶土をふんだんに使用して製造されているのでチョークで塗りつぶしたようなきめ細かい滑らかな仕上がりになります。また通気性に優れていますので漆喰などにも相性よく表面に塗装



することができます。』今まで壁紙の上から塗れる塗料は多く出ていましたが、テクスチャーが荒く、日本人の感性に合わないものが多く有りましたが、今回やっとよい商品に出会えたと言う感じです。『塗装用壁紙を併用されるとさらに塗料の乗り具合や伸びもよく、色(132 色在庫)の発色性も増します、また塗り重ねは 10 回程度まで、下地のテクスチャーを損なうことなく塗装できます。』と営業の露木さん自然界からアイデアをもらい、素敵なインテリアのプランに役立てていただければ。

記事: I

■ IPEC 21をみて

〈バンタンキャリアスクール空間デザイン学科
植生麻由〉

「インテリアのプロと企業をつなぐ国際展示会とセミナー」と題されるだけあり、来場する人は皆、インテリア〇〇〜と名の付く職業だったり、建築系企業の営業だったりする中、私なんか足を運んで良いものかと非常に緊張した。展示会と呼ばれるものにははじめて参加したので尚更だった。この緊張は、企業の方から説明を受ける・・・大学時代の就職活動となんとなく似ていると感じたからだろうか。企業のブースには自社新製品パンフレットの配布や担当者からの説明があり、実際に製品の素材を触ったりでき、知識のない私にも非常にわかりやすかった。ブースの見せ方も様々で、企業の色が出ていて、こちらも非常に興味深かった。今回はインテリア関係者を主とした展示会だったので専門性に溢れていたが、一般を対象とする場合はもっと砕けた感じになるのだろうか。一つ残念だったのが、学生にはパンフレットは配らないという企業があったこ

とだ。確かに学生相手では商売にならないが、差別しなくても・・・と思う。もちろん明らかに学生とわかる来場者にも丁寧に接してくれる企業が圧倒的であったが。国際展示場西ホールは東ホールの半分ほどの大きさしかないが、それでも広さは相当で、その中に多くの企業があり、一日見ても廻りきれないという友人の言葉に「確かに」と思った。企業向けのパンフレットなどは、店頭では手に入れることができないので、その展でも今回は貴重な経験だった。来年、自分が堂々とこの場に足を運んでいることを願う。

〈バンタンキャリアスクール空間デザイン学科
竹歳知子〉

ある企業の方から名刺を頂きました。結論から言うと、とても感動したのです。商品自体も、画期的かつ簡単な仕組みでローコスト。そして環境にやさしいと、素晴らしいものでしたが、明らかにプロでない私に丁寧に説明していただき、またお昼もカフェで偶然お会いした時に覚えて頂いていたことや、社交辞令だとしても「機会があればいつでも力になりますよ」と言ってもらった事に。明

らかに舞い上がっているとは思えない私ですが、企業とプロ、そして消費者のつながりのきっかけを、なんとなくではありますが、実際にイメージできたことがとても新鮮で感動的でした。名刺は他にも何枚か頂きましたが、お互いに自分の考え、理想、アイデアなどの意思疎通をすることができたのはこの一枚です。(私も『企画があれば計画してみたいです。』と偉そうなことを言いましたが・・・)商品の展示だけでなく、技術やシステム、イメージを決められた区画の中で「形」や「カラー」に置き換えて空間デザインにすることの難しさ、また面白さを見ることが出来て、良い経験になったのはもちろんですが、プロや企業の方が未来のインテリア・建築のあり方や商品・アイデアを模索し、絶えずきっかけと発見を求め、会話や視線の中で情報が飛び交っている。それが今まさにこの会場内であり、市場だと思つと、ただ「インテリアを勉強している学生ですから」と悠長に構えてはダメだなと感じることが出来ました。

■ 3分間のタイムスリップ

18世紀中ごろになるとゴシック様式と中国趣味様式がイギリス家具の装飾面にうまく取り入れられたが、とくにロココ様式との折衷は素晴らしいものがあった。しかしウィリアム・ケントのパラディアニズムも中葉を過ぎると新古典主義の傾向が主流となってくる。この混とんとした折衷様式を完成させたのが建築家でデザイナーのロバート・アダムであった。

かれはあらゆる装飾芸術の分野に適合する表現形式として定着させた。それはパラディアニズムと較べ、装飾や色彩など意匠的な構成が軽快・優美で、古典的な比例を必ずしも遵守するのではなく、変更を加え、また細部にはギリシャ建築の影響がみられ、カントリーハウスや都市住宅の改装や設計に活躍した。図1はポンペイの遺跡のサウナ室のアルコーブのデザインを Heveningham

Holl のサロンで表現しています。部屋の形成を多様化することにより、限られて空間をより豊かにする工夫がなされている。図2はやはりポンペイの商取引所の壁画を取り入れたケデレストン・ホールである。



図1. ポンペイの冷浴室



図2. アダムルーム

ロバート・アダムはローマに修学中に遺跡の発掘も自らしており、オーダー(柱頭)も盛んに建物や家具に取り入れている。



■ JIPA法人化についての報告

以前にもお知らせしましたが、JIPA（日本インテリアプランナー協会協議会）が任意団体から「有限責任中間法人日本インテリアプランナー協会」となります。「有限責任中間法人」については以前にご説明致しましたので、省かせて頂きますが、法人化の最も意義のあることは、中間法人は「余剰金を社員に還元しない＝営利を目的としない」団体として、有限とはいえ社会的責任を負える組織であるということが社会的認知と信頼を得られることです。そのことにより、インテリアについて社会へ呼びかけたり、啓蒙活動したりという事業がよりスムーズになり、ひいては参加している各協会及びその協会員の地位向上に役立つものと考えられます。去る10月14日（木）IPEC21-2004開催中に現JIPA代議員会が開かれ、今後の設

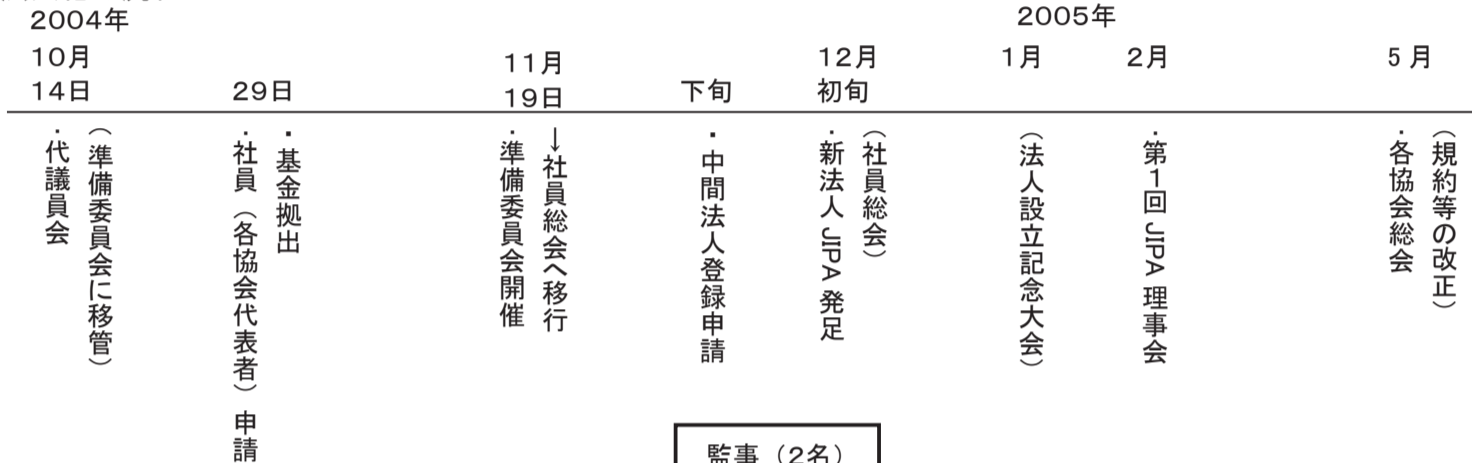
立作業を法人化準備委員会と準備事務局に移管する手続きが取られ、12月の設立予定にむけて準備しています。全国の各協会は今まで通りの団体ですが、規約等少しだけ変わるところがあります。その事について及び、今後の流れ、設立後の新しいJIPAの組織を簡単に報告致します。

広報室・下田

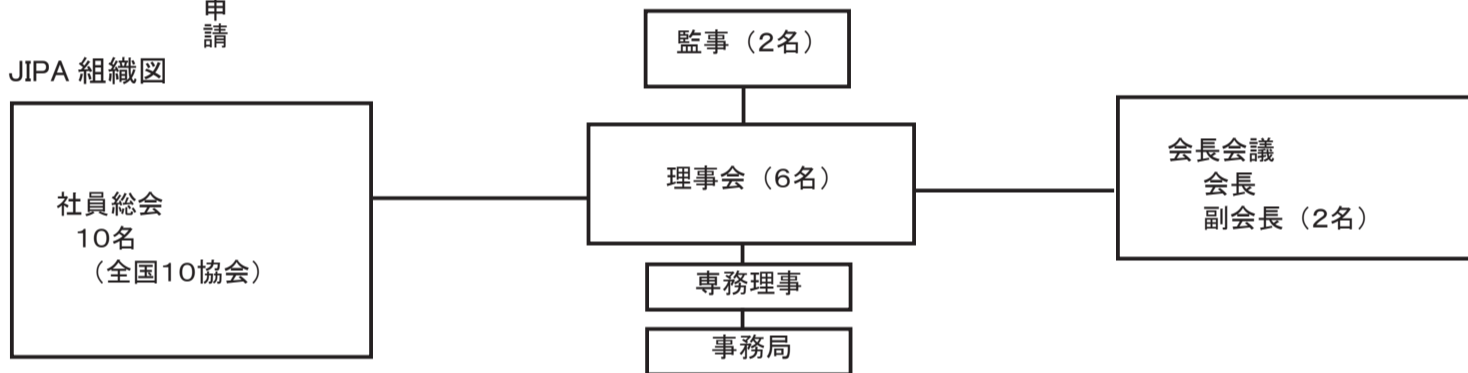
■ 各協会にて変わる事・気になる事

- ・ 全国組織（協議会）へ代議員を送っていた → ・ 各協会の代表を中間法人の社員として送る
- ・ 各協会の正会員の人数で代議員の人数を決めた → ・ 各協会からの社員は一人
- ・ 議決権は代議員各一票 → ・ 各社員は各協会の人数比率の議決権を持つ
- ・ 上記事項により各協会では規約等の調整が発生 → ・ 総会へ向けて総務委員会等にて調整
- ・ 各協会所属会員は新しい法人JIPAの協会員であることは今まで通り変わりません

■ 法人化の流れ



■ 新 JIPA 組織図



■ 知って知らない道具

元禄時代、佐賀藩主鍋島公の奨励で生産され、将軍家に御用達として毎年献上され、庶民には売買が禁止されていたそうで、明治以降売買できるようになった日本最古の面緞通です。ゴブラン織は経糸で柄を出します。緯糸で柄を出すものに博多帯があります。写真の機（はた）は緯糸に色糸をからめ柄をだす鍋島緞通制作図です。写真のしめ金は緯糸に色糸を絡めたとき、上からその糸を叩き、しめるための道具です。細長

い棒は経糸を通すための‘抜き’といい、裏緯糸と表緯糸を交互に動かしながら‘抜き’で経糸を刺し、緯糸に色糸を絡めると云う、気の遠くなる手作業です。量産ができないのですが、織り上げた「鍋島緞通」の技と美の世界を感じていただければ幸いです。久留米市高良内町のもめんの華工房の田中さんにお話を聞きました。

記事：I



■ 今月の入会者

- 準会員 ・ 榎本 文夫 様
 駒沢女子大学造形学科教授
 会社 榎本 アトリエ
 インテリア及び家具デザイン
 電話 03-5330-5696
 E-mail enomoto@fe-a.com
- 賛助会員 ・ (株)トッパン/コスモ
 (トッパン印刷関 連建材商社)
 担当者：川野一隆様
 電話 03-5418-3725
 FAX 03-5418-3726
 E-mail toppancosmo.co.jp/
 ・ ハーマンミラージャパン(株)
 担当者：田沼智子様
 電話 03-3444-7551
 FAX 03-3444-7580
 E-mail hermanmiller.com/japan/

■ 編集後記

読んで楽しい、そして何かが得られる、そんなレターにしたいと思っております。プロの集団に相応しくカラー写真もふんだんに盛り込んでおります。メールでも配信しておりますので、(FAXとはかなり違います)御希望の方は申し込み下さい。ホームページでも御覧いただけます。ULR <http://www.jipat.gr.jp/news/index.asp> からNL&IFでダウンロードできます。 井上・村元